

357

神詠辨

全

014138-000-6

特67-357

神詠辨

城村 五百樹 / 著

M16

ABB-0413



神詠辨

この書は勅撰廿一代集の中の新古今集續古今
 集玉葉集新拾遺集等に見えたる神詠の中み神
 の道はほそむけるにつはる歌をあげたるが交
 れるをぬき出て論へるなる年久しく世に中神
 と佛との事入る交りて上中下の人々をを辨
 へ知るもの少くてまどへる事多かりたまは今の
 世都にひなも歌よむ人多くなるとぬきど皇國の
 古書を見ぬ人はこの書よあげたるが如き歌を
 みて勅撰に入ると又撰者もやまごとなき人々

なまきばうきたるとよはあらじと思ひて眞と
し信める人もあるまじきよもあらぬばをきか
爲みものしつみを人さこゝろえてよ
一この書よあぐる神詠ハ神の現身みればしほし
ゝ時のよはあらざ其社々み鎮まひ靈のよと
給ひしをいへるなり
一神詠の左よこの歌は云云と註のあるは本集よ
あるをそのまゝ記せし辨みいはくとあるは予
が論へる語なり

明治十六年七月

城村五百樹著

新古今和歌集卷第十九

神詠

補陀落の南の岸み堂立て今ぞ榮えむ北の藤波
この歌ハ興福寺の南圓堂つくりはじめ侍るとき春日のえれもとの
明神よみ給へしけるとなむ

辨み云々興福寺ハ藤原氏の氏寺なれば其寺の法師どもそのか
と勢ひ盛なりし藤原氏み媚びあるつらひて神詠とてかゝる歌をい
つばと作しけむ神いかにかく拙き歌とよみ給ふべきこの集の
撰者ハ参議右衛門督源朝臣通具大藏卿藤原朝臣有家左近衛權中
將藤原朝臣定家前上総介藤原朝臣家隆左近衛權少將藤原朝臣雅

經等なるかゝる歌を神詠とてやまごとなき勅撰集み入れらきた
 るはいふなる事ぞや抄のかゝ世代中おしなべて佛の法よびと心
 をよせて我皇國の正しき傳を知る人少かき故なるべし下よあ
 げたる歌もなぞらへて知るべし補陀落とい天竺の山の名なり是
 は興福寺乃境内を彼みかぞらへてと覚るぬるべし北の藤波をい
 藤原氏四家乃中れ一つみか北家をいへるあり

西海立白波乃上よして何過すらむ假乃此世を
 こに歌ハ稱徳天皇の御時和氣清丸を宇佐宮み奉り給ひぬる日託宣
 し給ひぬるどぬむ

辨よむはく假乃世といふことハ佛家の説よ神道よはいはぬと

やまごともく諸の神社み佛は事物の入を混りするハ古乃國史
 を見るみ宇佐八幡宮を始とすこれハそ乃かき最勝王經といへる
 佛書よとりてかた書みいへる神を皇國の神とを一つみ心えする
 者たよとさよと起りて天皇みをとる思ほしめしてつひみ神佛を
 だくなくなりぬるあるべし續日本紀み見えたる詔旨みてもおし
 はからすこの詔旨ハ後み本地垂跡などといふ説の起れる本とぞ
 いふべきときば都み遠き國々までと神社み經を納め宮坊かとい
 ふものを置き神の調度を佛の道具も混へるやうにかま來にけり

續古今和歌集卷第十七

神詠

我頼む人の願を照せとて憂世よ残る三の燈火
こそハ稻荷大明神の御歌となむ

辨みいばくうき世などといふこと神のよみ給ふべきことみあら
ど人の作する歌なることいちじるしこの神社の事も佛家よあ
づかる偽説あり正しき古書を見て知るべしとべて名高き神社よ
は佛説の交れること多ければ心して見るべくなむ

我ぞ知を釋迦牟尼佛の世よ出てとやあき月乃世を照せとい
こそハ春日大明神の御歌となむ

辨みいばく例の本地垂跡の説よれる歌ならむ春日の神ハ神代
の神よ坐まはをいかでかかゝる歌とよみ給ふべきおふけなくも

偽る作れるものかな

から船み乗る守るよとこしかひは有るけるものをこの泊み
この歌ハ三井寺みて新羅明神のよみ給へるとなむ

辨みいえくこの歌もいぶかしき歌なるこの明神鎮ましゆを
よしもうけられぬ説あり

我あらばよも消果じ高野山高き御法の法の燈火
此歌ハ高野山よ人たまだなきける頃新親上人なげき侍りて祈念し
侍けるよ此山ハ明神とて夢よつげ給ひけるとなむ

辨みいえくこの山の明神ハいかにある神ありとよみ給ふべき歌なり

玉葉和歌集卷第二十

神詠

天照月の光ハ神垣や引きめ繩の内外ともなし
 この歌ハ西行法師太神宮よまうてはるまゝあらがきの外よて心
 のうちよ法施奉てて本地ハるだてあるべきよあらぬみ垂跡の前み
 近く参らざることを思ひつづけ侍てまことまどろとけるみつげさ
 せ給ひけるとなむ

辨よいそく是も神のよみ給ふべき歌よあらぞ歌詞書ともよ本地
 垂跡の説を弘めむとるもの作りたる歌をるべし

つくぐと思ひしとけば唯一つぼだいの道ぞこの山の道
 此歌は春日社の廻廊流くられ侍ける時たほん神のつげさせ給ひけ

るじをむ

辨よいはくこれもいつはり歌なり春日の大神いゝてかかく拙き
 歌をよみ給はむこの廻廊作られしは何きの御時よかありけむ治
 承二年この社の玉垣を廻廊よ改められし時は朝議ありて神祇官
 陰陽寮等よて卜筮ありしよよがらざりしかど奈良法師等の志ひ
 て請ぬまよ廻廊に定まりしこと古記に見たりこの歌もがの
 ともがらの作れるいつはり歌をるべし

いとぎよき彦の高根の池水よをほば心のたまざらめやは
 これはある人つくしのひこの山よこなりてらたまよきひこの高根
 の池水よたます心を又はけがまじ思ひつづめてまどろみける御

返しとせむ

辨よはくこの心をまはななどいふこと、儒佛の道の意よて
神の宣り給ふべきことにあらず

いよの國うばの郡のうとまても我こそいぬ世をくふとて
此歌ハ住吉の社へいやしき男の参りて侍けるが魚を食したる身よ
てかゝる所よ参りたることいあしき事よやと思ひてまどろみたる
夢にみくなむつげさせ給ひける

辨よいはくこれも佛意の歌なり住吉の神いめて魚となり給ひ
て人の口に入る給ふべきをかしき歌にこそ

とせゆめむ行きて守らむ般若だい釋迦の御法のあらむ限ハ

此歌ハ貞慶上人般若臺といふ所にうつり給ひて春日大明神を勸請
し奉らむと思ひけるみかくつげさせ給ひけるとせむ

辨よいはく心とまつたかき歌ぬまけりかゝる歌を作して人をあ
ざむめとせしハ心ぬる心ぞや

よそはがら佛の御名をせむまばこそ人とりをなほかしきぬぬ
これは徳地三年の春にこの新熊野み本山乃衆どもうつり居ておこ
なひぬどしけるみ或人等むひきて手向奉らむせしけるかゝらよ
高聲念佛を申人け侍けるをいぬはしく覺てうちほとぬみける夢み
見えたるとせむ

辨よいはく拙くを偽り作れる歌ぬぬこれ熊野よとばやく佛者の

立入りしるるなり徳地乃地ハ治の字ハ誤ならむ

千早振玉乃簾を卷あげて念佛の聲をきくぞうれしき
日吉の聖眞子ハ御歌とをむ

辨みいはく聖眞子ハ皇國乃正しき神ハあらじ終む〜日吉二
十一社ハ佛ぞハ事多く交りて附會説おかりき

千早振神乃いおきみ圓居せむかあるとよえぐみたるノ歌をたれ

此歌ハ春日大明神高辨上人ハ託宣し給ひあるとをむ

辨みいはくめぐちるよといふこと神の宣を給ふべき語みあら
ぞ高辨上人が己を世の人ハ尊く思はせむがためみ作られたるかま
たその後のひと神と僧とハ親しかるとまを知らせむとて偽と

作れるもの

たのもしき誓ちがして諸人のまつためしよはかきとひるせむ
此歌ある人賀茂大明神よ歌を給はると夢みみておどろき侍けき
ば白きうげやうよめせ給ひておられたる御歌と申傳へたるとな
む

辨みいはくちがひなどあるは神のよと給へる歌ハあらじ事
のよし心えがたき歌になむあをける

色深く思ひけることぢあやしけれ本のちがひとさらみとけきじ
此歌ハ武藏國ハ侍ける人熊野ハ詣て證誠殿御前ハ通夜して後の世
の事を祈り申侍ける夢のうらみとめし給ひけるとなむ

辨にいはいくときも神の御歌よあらざることをいふこと

ちかひてき天れ岩戸を明しよりかたき願をかたふへて

此歌ある人つかさをのぞみて地主権現よ祈り申けるよとめし給

るやむ

辨よいたく天の岩戸などぞこぞぐしうよみ出されど誓願など

やいへるハ偽り作れるえせ歌あることやいふまでもあらざ

つらけれとつらとやいひつはらもらて頼むやあらば我も頼まむ

此歌ハ治承の頃清水寺僧長玄彼寺を離れて法性寺邊よとめむと思

ひたちて地主権現の御前よ通夜したりける夢よあづけし箱を取り

かへとかりと仰せられけきはあさほしく思ひておこたり申はせて

七日こもりたりけるよ又寶前よりとりかへしつる箱ハもとのこと
くかへし給はるよとてこの歌をとめし給ひけるよなむ

辨よいたく歌の意を考ふるよ神の御歌とらふことをばつとめむ

なむ

三笠山雲井はるるに見ゆきとも真如乃月はことみとむかぬ

世乃中み人あらそひ乃なかりせばはるみ心乃うれしむらほし

こ乃ふた歌は曆應三年六月の頃春日の神木やましか寺金堂み渡ら

せ給ふ時つげさせ給ひたるやなむ

辨みいはくこのふた歌もいつはり作れる歌かり奈良法師などの

よとぞならむ

我がくして三笠の山ぞうかれなば天の下みはちきよすむべき
ときは春日の御さかき都よおはしましける春の頃ある人の夢よ大
明神の御歌ぞ見えけるをなむ

辨よむはくむぶかしき歌なり

波母山や小ひえの杉のこやまゐは嵐もさむしきふ人もなし
是ハ日吉地主権現の御歌をなむ

辨よいかこれむぶかしき歌なり

有漏よりも無漏よ入ぬる道なきば是ぞ佛のみもとなるべき
此歌後白川院熊野の御幸卅三度よありける時みもどいふ所よて
つげさせ給ひけるをなむ

辨よいはくかゝる歌を神のつげ給りといふことおもこと思
つる人もありしよやそれかこの世のことも思ひやする

もとよりもちりよまじはる神なれば月のをばりも何かくもしき
是ハ和泉式部熊野よまうでたりけるよをばりよて奉幣かなはざり
けるよ「晴やらぬ身のうき雲のたなびきて月のをばりとなるぞか
なしき」よよみてねるりける夜の夢につげさせ給ひけるとなむ

辨よいふ塵に交るといふこと神の御上にかきことなり和光同塵
の説によりて作れる歌なりさて月水をいむは古き例なり神いか
ぞよむる歌をよみ給ふべき

新拾遺和歌集卷第十六

後乃世代苦しき事を思へかしあはき此世ハ夢ぞとらぞや
静妙法師延暦寺執當解却せられて乃ち日吉地主権現にまうて終
夜祈請しけるに夢れうちみ寶殿乃ちより詠せさせ給ひけるぞぬ
む

辨に心はくこ代歌も偽り作れるなり後乃世乃苦しきまた此世は
夢ぞといふこそ神乃宣り給ふべきこそをみあらざ

た乃めつゝこぬ年月を重ぬればくちせぬ契いかゞ頼まむ
法印澄憲建久元年日吉大宮乃千僧供養代導師乃賞を仁和寺乃海惠
みゆづりて律師みねり侍みありるは海惠律師にありまば日吉みほ
あるべきよし申ぬがら年月を送侍けるみえし給ひあるぞぬむ

辨み心はく是をうあらぬ歌みぬむ

因よいふをべてむのしよと神託カミノツケをいふこそ代書みあげゆる歌
集のこならぞ六國史の中よを見えゆるが神み親しゆるべき祝部
みハ少くて神みうじがるべき法師み多きはいふがしきことなり
予古典によりて考ふるみ佛の法盛み行はきしより法師は上中下
の人々に心たく敬いまつればその心ふことも世み尊び用ゐらま
けをさるみよりてはらくろき法師は神のつげじふふことないつ
はり作りて弘めしこと多かりけむとて今の世正しく神託を云
ふ事をきるぞおきは上代人淳朴なりし時は眞の神託ありしこそ
皇典に見えたきと世降ち行くまゝに人の心あしくなり偽り作り

て己が利にせよとめ人をあざむき恐るも神の御うへに無き事を
 おおせ奉りなごせしことありしによりて神も怒らせ給ひまた
 朝廷よりもたやましく神託をいふ事をせしめ給ひしことありし
 ときつひに正しき神託はあきやうみおきおぼるべしあまのこ

まがことをみえがせきこせ世をてら次月日の
 神は成りゆてませきと本居翁の詠おるきゆる
 が如くおべて世れ中の事はみなよきことれこ
 あるよあらざよからぬこともまたありされば
 そのよからぬものをよくえらびよめてこそ真
 のよきものとはぬるべけきこぬ城村大人諸
 の歌集の中をみてあげつらいきゆるこそこの神
 詠辨よせのかこの世のからいしよて神詠てふ
 ものよよあらぬことれまじきりしをうきゆるこ
 て清き渚のうしやもて整へどおどとく清めた

まひよるる書よしあきばるまよひの神もよし
とやえそなひはらむとかしこもつゝも一言を
其よりよ書つく

弘 尋 石

明治十六年十月十五日版權免許（定價五錢）
同 年十一月 出版

山口縣士族

著述兼藏版人 城村 五百樹

山口縣周防國吉敷郡御堀村
四百七拾九番屋敷寄留

